水戸啓明V3

男子

ハイライト

中堅・石塚流れ変える

〈男子団体決勝〉つくば秀英ー水戸啓明　投げ技を仕掛ける水戸啓明の中堅・石塚（左）＝県武道館

男子団体決勝は3年連続で同じ顔合わせ。水戸啓明ーつくば秀英のライバル対決は、重量級選手に切り札を持つ水戸啓明が競り勝って3連覇を達成した。

手の内を知り尽くした間柄だけに序盤戦は決め手を欠いた。水戸啓明は先鋒・絵面佳彦（1年）、次鋒・長山和寿（2年）が相次いで引き分け。こう着状態が続いたが、前日の個人戦を制した2人が登場すると試合運びに落ち着きを取り戻した。

90キロ級王者の中堅・石塚康太郎（同）は「チームのポイントゲッター」と川又千里監督（51）の信頼も厚い。「焦りはなかった。流れの中で出た」という一本背負いが技ありとなって優勢勝ちを収めた。

副将・樫村将伍（2年）も無差別級を制した実力を発揮。「前の3人が自分につないでくれた。主将として役割を果たさなければ」と畳に上がり、後がなくなり必死で攻めてくる相手を冷静にさばいた。組み手争いから投げの応酬と激しい攻防が続いたが、ポイントを許さず引き分けに持ち込み、大将・根本聖也（1年）の登場を待たずに優勝を決めた。

昨年の全国選手権はあと一歩のところで8強入りを逃した。石塚は苦い経験を忘れていない。「勝てたはずの相手に引き分け、悔いが残った。雪辱を果たす時が来た」と力を込めた。

（高畠和弘）

男子団体３連覇の水戸啓明

全国高校柔道県予選

柔道の全国高校選手権県予選の最終日は18日、県武道館で男女の団体戦を行い、男子は水戸啓明が3年連続13度目の優勝を果たした。女子は土浦日大が2年連続4度目の頂点に立ち、男女とも優勝校は全国大会（3月19、20日・日本武道館）に出場する。

勝ち抜き戦で争われた男子は、決勝で水戸啓明とつくば秀英が対戦。次鋒戦まで互いに譲らなかったが、水戸啓明の中堅・石塚康太郎（2年）が優勢勝ちでリードを奪い、1人残しでつくば秀英を退けた。3人制の女子は土浦日大が危なげなく決勝に進み、決勝では中堅・飯田蒼生（2年）が一本勝ちし、1ー0で水戸葵陵を下した。

【男子】

◇団体▽1回戦　つくば秀英5人残し藤代紫水、真壁代表勝ち東洋大牛久、水戸工3人残し鉾田二、総和3人残し下妻一、岩井3人残し土浦工、日立工1人残し結城一、土浦日大2人残し水海道一、磯原郷英5人残し明秀日立、勝田工4人残し古河一、牛久4人残し鹿島、明野2人残し多賀、八千代5人残し下館一、水戸葵陵5人残し太田一、茨城東、水戸啓明5人残し太田一

▽2回戦　つくば秀英4人残し真壁、水戸工2人残し総和、岩井4人残し日立工、土浦日大3人残し竜ケ崎一、磯原郷英4人残し勝田工、牛久3人残し石岡一、明野3人残し八千代、水戸啓明2人残し水戸葵陵

▽準々決勝　つくば秀英3人残し水戸工、土浦日大2人残し岩井、磯原郷英2人残し牛久、水戸啓明3人残し明野

▽準決勝　つくば秀英4人残し土浦日大、水戸啓明2人残し磯原郷英

▽3位決定戦　磯原郷英　1人残し　土浦日大

▽決勝　水戸啓明　1人残し　つくば秀英

絵面　引き分け　宇都野

長山　引き分け　高見

○石塚　優勢　村木

石塚　引き分け　小松崎

樫村　引き分け　橋場

【女子】

◇団体▽1回戦　牛久2ー0石岡一、つくば秀英2ー1水戸農、多賀3ー0岩瀬、磯原郷英2ー0那珂湊、水戸葵陵3ー0下館工

▽2回戦　土浦日大2ー0日立商、つくば秀英2ー1牛久、総和2